

発信日時：2025年8月21日 20：00

発行元：公益財団法人 知床財団

2025年羅臼岳登山道におけるヒグマ人身事故に関する調査速報

1. 事故の概要と経過（既報の情報を含む）

2025年8月14日11時ごろ 羅臼岳登山道（岩尾別コース）を下山中の登山グループ（2名パーティ）のうち1名（以下、被害者という）がヒグマに襲われたとの通報が警察に入る。通報者は、被害者の同行者。知床連山登山道全線を閉鎖とし、同日より警察を中心とした捜索救助活動を開始。

翌8月15日の捜索活動において、登山道近傍の林内で被害者に接触している0歳2頭連れ親子のヒグマを発見（計3頭、捕獲個体という）。その場でヒグマ3頭を銃により捕殺。被害者は、その後、病院に搬送され死亡が確認された。

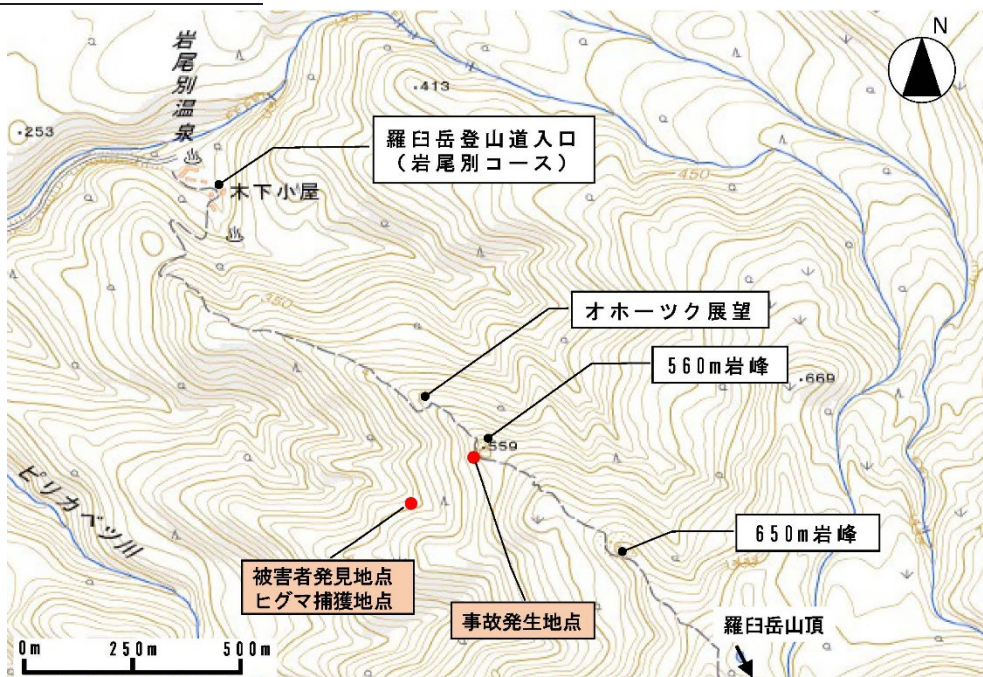
捕獲個体と本件事故との関係を分析するため、北海道立総合研究機構（以下、道総研）がDNA分析を実施。被害者の遺留品から採集した体毛および唾液と、捕獲個体から採集した肝臓のDNAが一致したと発表（8月19日北海道庁プレスリリース）。

8月20日に事故調査を目的とした現場検証を関係行政機関および知床財団で実施し、事故現場を特定。スマートフォンなどの遺留品を追加で発見し回収した。

なお、登山道の閉鎖措置は継続中。8/21現在、本件事故による2次的な被害は確認されていない。

被害者情報：東京都在住 26歳男性

事故発生場所：下図の通り



2. 事故現場の環境と発生時の状況

現地調査と道総研による聞き取り調査から以下のことが明らかとなっている。

事故現場の環境

- 被害者がヒグマと遭遇したと思われる地点は、岩峰（通称560m岩峰）の南側を巻くように登山道が配置された狭隘な区間に位置する。事故現場は、山頂方面から登山口に向かって進むと岩峰の陰で見通しが悪い地点である。
- 560m岩峰付近は、夏季にはヒグマのエサとなるアリが恒常的に発生する場所であり、アリの摂食を目的としたヒグマの出没が多発する場所として知られている。8月15日の現地搜索時、および8/20の事故調査時においても多量のアリの発生を確認している。
- 事故発生時の天候は曇り。現地の風速等は不明。

事故発生時の状況

- 事故発生時、周囲に同行者および第三者はおらず、**ヒグマによる被害者への攻撃の瞬間は誰も直接目撃していない。**
- 被害者は同行者から離れ、先行して単独で**走って移動していた**可能性が高い。同行者との距離や被害者の移動速度などは不詳であるが、登山全体の行程から類推してもかなり早いペースで下山していたと推定される。
- 被害者はクマ鈴を携行していた。被害者自身のクマスプレーの携行や使用に関する証拠は**確認されておらず、不明**である。
- なお、同行者は「クマよけスプレー」と謳っている商品を所持していたが、ヒグマに対応した製品ではなく、かつ再利用品であった。事故発生時の初期対応において使用を試みたが、噴射できていない。

事故発生後の状況

- 被害者は、ヒグマと遭遇した際に攻撃を受け、その後、事故現場より南側の林内にひきずりこまれたと推察される。
- 遅れて現地付近に到着した同行者が被害者の助けを呼ぶ声でヒグマに襲われている被害者を林内に発見し、応戦と救助を試みたが、ヒグマは被害者から離れなかったため、携帯電話の通じる登山道上に移動し、警察へ通報を行った（通報時間11：10）。
- この際、同行者が確認したヒグマは1頭との情報であった。

3. 捕獲個体の情報および加害個体との関係性

捕獲の状況

- 8月15日13時06分頃、被害者を咬え、引きずりながら斜面を移動する2頭の子を連れた親子ヒグマを搜索救助隊が発見。最初に母グマに発砲し捕殺、その後、ほぼ同地点で子グマ2頭に発砲し、2頭の子グマの死亡も確認した。

- 捕殺したヒグマはヘリコプターにより搬送され、同日中に解剖調査を実施。DNA等のサンプリングが行われた。

捕獲個体の情報

解剖調査とDNA分析等の結果により判明した捕獲個体の情報は以下の通り。

- 母グマ（メス、11歳、体重117kg、体長140cm）
- 子グマ（メス1頭、オス1頭、ともに約0歳、体重17kg/17kg、体長72cm/71cm）

捕獲個体と加害個体の関係

- 既報の通り、被害者の遺留品から採集した体毛および唾液と、捕獲個体から採集した肝臓のDNAが一致していることが確認されている。
- また、今回実施したDNA分析において、捕獲個体以外のヒグマのDNA情報は検出されていない。捜索救助、現場検証等の事故調査においても、捕獲個体以外のヒグマが今回の事故に関与した客観的な情報は得られていない。

捕獲個体の識別

捕獲個体のDNA情報と外見的特徴から個体の識別を実施した。過去のヒグマ対策記録やDNA調査により把握している個体情報と突合した結果、以下のことが明らかとなった。

- 捕獲個体は、2014年（出生年）から知床国立公園で毎年のように目撃されてきた。特に、岩尾別地区を中心に活動しており、今年度も5月頃から同地区を中心に目撃されており、2頭の出生も確認されていた。
- 捕獲個体は、国立公園内の道路沿線など人目につく場所で繰り返し目撃されており、今年に入り当該親子グマと思われるヒグマの目撃情報が30件以上寄せられていた（道路沿線での最後の目撃は8月8日）。
- なお、8月10日には羅臼岳の登山道付近で当該親子グマと思われるヒグマの目撃情報が登山者より寄せられている（注1）。
- また、「人を避けない。人に会ってもすぐに逃走しない。」といった行動段階1から1プラスに該当する行動（注2、注3）が度々確認されており、これらの行動を抑止するため、捕獲個体への追い払い対応（忌避学習付け）を繰り返し行ってきた経過がある。
- 捕獲個体に関して、餌付けされたかのような情報が一部で出回っているが、知床財団および行政機関ではそういった事実は把握していない。
- 一部報道において当該個体の愛称・呼称に関する記事があるが、知床財団および行政機関がそのような愛称・呼称を用いた事実はない。

注1：道路沿いなどの低標高で活動するヒグマが夏季に山岳地域に移動することは一般的な行動。

注2：[知床半島ヒグマ管理計画](#)に基づくヒグマの行動段階の区分による。

注3：「人を避けない。人に会ってもすぐに逃走しない」ヒグマは知床半島全域で多数確認されており、捕獲個体の際立った特徴とはいえない。

4. 事故発生以前に登山道で確認された要注意事例と本件事故の関連性

羅臼岳登山道でのヒグマ目撃情報は例年多数寄せられており、今年度の目撃情報の件数は平年並の水準だった。一方、8月10日より以下の事例が発生しており、要注意事例として詳細把握に努めるとともに、警戒情報等の発出を行っていた。

- 8月10日：

岩尾別コースの 銀冷水（1,040m）～大沢（1,120 m）間の登山道上で**0歳の子グマ2頭を連れた親子グマ**が目撃される。この親子グマは利用者を気にせず登山道を登ってきたため、登山者（別パーティのガイド含む）がクマスプレーを構えて後退する事態となった（スプレー噴射なし）。提供写真による外見上の特徴から、この親子グマは今回の捕獲個体と同一である可能性が高いと推察される。

- 8月12日：

弥三吉水間（780m）～ 銀冷水（1,040m）の登山道上で単独の成獣サイズのヒグマ（外見特徴：濃茶色、体毛長め）が下山中の登山者によって目撃された。目撃者に接近したことからクマスプレーが使用されているが、使用量は微量である。この個体は目撃者から一時離れたものの、遭遇から退避まで約5分間にわたり接近と離反を繰り返す行動を見せた。後日、目撃者から「報道で見た8月10日に羅臼岳で目撃されたヒグマの特徴と似ていた」との情報提供があった。

5. 登山道等を対象とした情報提供・管理活動の実施状況

日常的なヒグマ情報の発信

- 登山道を含めたヒグマの目撃情報、注意喚起情報、基本的な対処法については、webサイト（[知床のひぐま](#)）やSNS等で継続的に発信している。
- 知床自然センター等の国立公園内のビジターセンター、岩尾別登山道の入口にある木下小屋などでは主に登山者を対象としてクマスプレーのレンタルを実施しており、レンタルにあたっては、使用方法やヒグマ対処法のレクチャーを併せて行っている。
- 岩尾別コースの登山口においては、登山道沿線でのヒグマ目撃情報を登山者から収集しているほか、収集した目撃情報を登山口の地図上に掲示する取組みを継続的に実施している。

要注意情報の調査と発信

- 警戒・注意の必要な事象が発生した際には現地調査や聞き取り調査を行い、上記webサイト等で警戒をよびかける情報を発信している。

- 8月10日、8月12日の要注意事項の発生に際しては、webサイトとSNSで注意情報を発出するとともに、8月12日午後には登山口に「要注意ヒグマ目撃情報」を示す[注意喚起看板](#)を掲示した。
- 8月13日には環境省職員、斜里町職員、知床財団職員が登山道のパトロールを実施し、登山者への聞き取りも行ったが、危険事案に関連する情報は得られなかった。

6. 本件事故を受けた今後の検証や取組みについて

今回の事故は、ヒグマの保護管理に取り組んできた知床財団としても重大かつ深刻な事案であると受けとめています。社会的な関心も高く、知床においても地域の環境保全、観光利用、住民生活等のあり方に大きく影響する事案と考えます。今後の事故検証、再発防止等の取組みについては、関係行政機関を中心に進められる予定です。知床財団はこうした取組みに協力し、必要な情報を提供するとともに、今後の安全対策や利用のあり方について積極的に提言していく所存です。

本件に関するお問い合わせ先：

公益財団法人 知床財団 事務局長 玉置 創司（たまき そうし）

【電話番号】 0152-26-7665 【E-Mail】 info@shiretoko.or.jp
